

中沢かつゆき 通信

自民党鎌倉市会議員

<http://www.nakazawa.jimusho.jp>



自民党鎌倉市連合支部青年局長

市政に関するご要望、皆さまの声をお聞かせください！

9月定例会

9月1日から9月定例会が開かれました。今議会では、まず市長が山崎バイオマスリサイクル施設建設について、6月議会で表明した9月議会までに結論を出す、ということ、あと3か月検討したいと表明がありました。12月議会までには建設か断念かの結論を出す、というものです。技術的には課題の残る施設ではありますが、一方ごみ施策では、今泉クリーンセンターの稼働を、地元の皆さんとのお約束を再度延長して稼働をお願いしている状況です。今泉の砂押川歩道整備をライフワークとしている私としては、今のようなごみ収集車が、危険な状態で今泉クリーンセンターに運んでい

る現状は、一日も早く解決しなくてはならないと思います。12月議会までの市長の決断を見守りたいと思います。来年の統一選まで、あと半年となりました。県議会議員選では、準備であわただしくなってきました。自民党として、中村県議の再選を何としても果たさなくてはならないと思っています。参議院選では、自民党が多くの議席をいただきました。しかし、決して自民党が勝ったわけではないと思います。今一度、政治の原点に立って自民党再生を神奈川から行っていかなくてはと思います。自民党への、さらなるご支援をお願いいたします。

安全・安心な街づくりについて

第一小学校で、耐震工事中にアスベストが流出する事件があり、大きく報道されました。体育館の壁と屋根に、非飛散性のアスベスト建材が使用されており、高圧洗浄でアスベストが飛散したというものです。体育館横のU字溝に繊維状のものが見つかったのが6月8日、正式発表は6月18日。この間保護者をはじめとして、開会中の議会にも報告がなかったということで、質問をしました。平成17年、公立保育園の保護者会会長をしていたとき、別の公立保育園と公共施設でアスベストが見つかりました。アスベストが見つかった保育園では、除去工事中他園への振り替え保育も行われ、大変な問題となりました。その時、他の保育園や学校・公共施設でのアスベスト有無の調査をお願いし、他にはない、との回答が市よりありました。しかし、今回のアスベストは、レベル3という「非飛散性」のアスベストということで、見過ごされたものでした。担当課からいろいろ資料を取り寄せますと、アスベストというものの課題が見えてきました。担当課だけでなく、施工会社もアスベストに対しての認識があまりなかった、ということが今回の事件の根底にあります。平成17年の除去工事以降、平成20年にもアスベストに対しての規制変更があり、中学校などで除去工事も行われています。子供たちが日常過ごす学校ですので、安全・安心な空間であってほしいと思います。一般質問では、担当部長が正式に謝罪をしていただきました。担当部として、真摯に向き合っていただけ、ということよかったです。しかし、二度とこのような事故が起きないように万全な対応と、子供たちと保護者の皆さんへのしっかりとした対応と説明をお願いしました。担当部長からは、工事終了後、きちんと説明をします、との答弁をいただきました。

防災について

9月1日は、防災の日。関東大震災は大正12年9月1日(土曜日)午前11時58分に起きました。相模湾北西沖80kmを震源としたM7.9の直下型地震です。阪神大震災はM7.3、中越地震はM6.8、能登半島沖地震はM6.9、宮城岩手内陸地震はM7.2でした。マグニチュードが1増えるとエネルギーは32倍になります。関東大震災での鎌倉市の被害は、鎌倉・腰越・津村で死者470人、全焼家屋1870戸、小坂で450戸、津波での被害多数となっています。同じ規模の地震が今起きたとしますと、死者380名、負傷者7020名、全壊家屋13,330戸、半壊14700戸とされています。防災は、やはりライフワークとして取り組んでいます。中越地震以降の大地震での経験を生かして、鎌倉の防災整備を行っていききたいと思います。災害時には、複数経路での避難の重要性が言われています。訓練などで行われる避難経路が使用できないとき、別のルートも考えておくというものです。鎌倉市でも、複数避難経路の周知などを、今後とも考えていきます、との答弁をいただきました。防災備蓄では、定期的に在庫品などのチェックを行っている、との答弁がありました。まだまだ十分な備蓄体制となっていませんが、さらなる整備をお願いしました。災害時に公共浴場の果たす役割も、近年の大災害では重要とされています。災害時の生鮮衛生上、「入浴」の果たす重要性は、臨床心理士などからも提唱されています。中越地震の時、被災者の方が旅館から出てきたときの笑顔は、記憶に新しいところです。能登半島地震の時には、真っ先に一般開放した温泉施設もありました。また、公衆浴場の浴場水は、生活用水としても使用でき、採暖、消火用水などでの使用が可能です。更衣室や休憩室は、救護場所や一時避難場所など様々な目的で使用可能として、自治体でも災害時の協定を準備しています。鎌倉市としても、今ある銭湯との災害時の協定を考えていきたいと思います。

地域振興について

公共工事は、地域振興の一助を担っています。地元への発注は、地元会社の「地力」を底上げし、地域経済の活性化を促進します。鎌倉の会社が、なかなか入札に参加しなくなっています。様々な理由があると思いますが、公共工事を通じて、より多くの経験を積み、鎌倉市内だけでなく県内や全国の工事を手掛けられるような、そんな会社が多く育ってほしいと思います。以前は公共工事の企画段階から様々な会社が関わりましたが、企業と行政が密着するのはよくない、ということで今はなくなっています。専門の会社が、企画段階からかかわることで、よりいいものができると思いますので、今後検討をお願いしました。昨今、経営が若い世代に交代しています。いろいろな場で、私と同世代もしくは若い世代が経営者として育っています。鎌倉の産業が次代につながるよう、いろいろな施策をお願いしたいと思います。

中沢かつゆきの経歴

経歴：昭和41年6月生

群馬県立渋川高等学校卒業
東京電機大学理工学部情報科学科卒業
スパライズ株式会社代表取締役
大阪観光大学観光学研究所
客員研究員
鎌倉中央ロータリークラブ理事
材木座保育園保護者会会長
にかいどう子どもの家父母会会長
鎌倉市テコンドー協会顧問
県議会議員中村省司秘書
著書「安全な温泉・あぶない温泉」
(草思社刊)

二階堂在住

事務局：Tel 0467-61-0305

Fax 0467-61-0315

ほっと、一息：日頃の疲れを、温泉で癒してみませんか？



* 中沢は温泉コンサルタントでもあります *

鳴子温泉：東北新幹線・古川駅から陸羽東線に乗り換え40分、鳴子温泉がそこにあります。源義経伝説に彩られた鳴子温泉は、9種類の温泉があり、源泉温度は90度を超えます。鳴子駅を出て坂を上がると、硫黄の香りが温泉情緒を醸し出します。鳴子といえば、こけし。首を回すと、キュッキュツとなることでも有名です。秋の鳴子は、山々が紅葉で燃えるようになり、一見の価値のある風景です。鳴子の温泉街を歩いていると、「温泉やぐら」を見ることができます。ここには源泉があり、定期的に源泉の掃除をする必要があります。「やり」のような道具を源泉の中に落として、源泉の中の温泉の成分が固まった「温泉スケール」を削り落とします。でも、源泉温度が90度を超えているので、まずは水を入れて源泉を鎮めてからでないと作業ができません。うまく鎮めることができないと、高温の温泉が噴き出します。自然の威力を様々と見せつけているのも、鳴子温泉です。昭和23年に、早稲田大学理工学部土木工学科の学生がボーリングの実習で源泉を掘り当てた、早稲田栈敷湯も有名です。仙台から少し足を延ばして、鳴子観光も楽しい旅です。